

英語教育部門平成 25 年度事業報告

末吉 豊

部門のミッション

国際化がますます加速する社会の中で、世界で活躍できる人材を広く集め、社会に送り出すことは大学に課せられた重要な責務です。そのためには、世界中から幅広く留学生を受け入れ、グローバルに活躍できる人材を育成する方策が不可欠です。

長崎大学工学部では、日中韓の大学間連携による水環境技術者育成事業（文部科学省支援）や、ミャンマー国工学系高等教育および研究の拡充プロジェクト（JICA 支援）、ケニア国ビクトリア湖沿岸域におけるアクアヘルス人材育成事業（ケニア国支援）を中心にグローバル化を進めていますが、これらを更に推進するためには、研究・教育の国際化の一環として、工学研究科・工学部の授業への英語の導入や英語化が急務となっています。

具体的には、留学生が英語のみで修士の学位を取得できるコースの設定や、日本人学生が国際学会、国際社会で活躍するために十分な英語の運用能力を身に付けることができる授業の設計が必要です。

英語教育部門では、工学研究科・工学部の授業への英語導入の指針を示し、授業の英語化を推進して、工学教育のグローバル化に資することを目指しています。

平成 25 年度の活動

英語教育部門は、総合実践教育研究支援センターの工学教育支援センター（黒川不二雄センター長）への発展的改組に伴い、平成 25 年 10 月 1 日に発足しました。部門の使命については上述の通りですが、本学工学研究科・工学部の授業への英語の導入が遅れているという危機感から、発足に先立ち、7 月末より活動を開始しました。

25 年度の目標は内外の大学の状況を調査し、授業への英語の導入および英語化へ向けて指針（提言）を示すことでした。

本学での導入状況については、平成 25 年 1 月に教務委員会で研究科の状況を調査した資料がありました。個々の授業に関しては英語が一部導入され、今後の導入も可能との調査結果でしたが、留学生が英語の授業のみで学位を取得するには、コースや研究科で一体となって取り組む必要がありました。また、学部では専門用語を英語で併記する、英語の資料を使用するなどの取り組みが一部で行われている程度でした。また、3 年前の工学科発足に際して、技術英語が 1 科目から 4 科目に増えましたが、必修化や開講時期、授業内容については、各コースの取り組みは足並みが揃っていません。

このような状況の下、8 月から 9 月にかけて、旧六大学や九州内の大学を始めとして国内の主要な大学の英語導入状況をアンケートおよび部門メンバー（柴田准教授、兵頭准教授、安武准教授、諸麦助教）からの情報提供により調査しました。その結果、先進的な取り組

みを行っている大学もありますが、大部分は英語導入の必要性は認識しているものの、本格的な取り組みは始めたばかりか、これからという状況です。

これらの調査結果を踏まえて、副センター長の坂口准教授、小椎尾准教授にも加わっていただき、検討を重ねました。その結果、授業への英語導入について 5 段階のレベルを設定し、徐々にレベルを上げていくことを中心に提言（中間報告）をまとめ、センター長宛に提出しました。

今後、教務委員会、技術英語 WG とも連携しながら、活動を進めていく予定です。